

葬儀社に問われるのは“人間力”

たかはし葬儀社に入社したのは2012年のことです。

高橋社長に迎えに来ていただき、「面接をしていた日、ちょうど東日本大震災後のタイミングでした。」

震災で流されてしまった本社の代わりの、掘っ立て小屋の事務所で「いつか本社を立て直したいんだ」と語る高橋社長。その想いや姿勢に惹かれ、入社を決意しました。

葬祭業界で働き始めたのは、今から30年以上も前のことです。

当時の葬祭業界は、力仕事からサービス業へと転換し始める過渡期でした。とはいえまだまだ力仕事メインで、“葬儀社”というより“葬儀屋”という方がイメージに合っていましたね。

若手の頃は近い人々を亡くした経験がなかったため、お客様と接する際、かなり苦労をしました。ですが、“グリーンワーク”という、大切な人を亡くされたご遺族様たちの心理の変化をまとめた学問を学んでいくうちに、葬儀の奥深さに気がついたんです。

愛する方を亡くされたご遺族様には不安や悲しみ、苦しみなど計り知れない心理が生まれており、言葉にできないお気持ちを抱えられています。

当然私たちにミスは許されず、そのような状況を考えて、小さな不注意にも気を配らなければなりません。しかしそんなご遺族様と関わり気持ちを和らげられるのもまた、葬儀社である私たちだけなんです。

その後は、グリーンワークを通して見つけたやりがいや胸に、関東圏で3社ほどの葬儀社に勤務。やがて私生活に変化があったのを機に、日本全国を範囲に転職先を探し、復興の真つ最中だったたかはし葬儀社と出会いました。

関東から裸一貫で東北に向かった私と、大きな被害から立ちあがろうとしている高橋社長、たかはし葬儀社。

大袈裟かもしれませんが、何か重なるものを感じました。

たかはし葬儀社のある宮城県は東北に位置し、関東と比較すると、人々の繋がりを強く感じられる儀礼的な葬儀の文化が残っています。

さらには葬儀の進め方に微妙な違いがあり、そういった地元ならではの特徴を、一つひとつ高橋社長に教えていただきながら学んでいきました。

現在は現場施行を含め、会社を支える仕組みづくりに携わっています。そういった中で大切にしているのは、スタッフの皆さんに“人間力”を持ってもらうことです。

たかはし葬儀社は、先代、先先代の頃から地域密着を掲げ、地域に残る葬儀の儀礼的な部分に重きを置いてきました。そのため私たちの葬儀には正解がありません。

仕組みづくりは大切ですが、それ以上に葬儀のプロとして、どんな状況でも地域のお客様のことを考え自分で判断し対応できる“人間力”を、スタッフには持ってほしいんです。

たかはし葬儀社はまだまだ、成長の途中にあります。

会社としての成長はもちろんスタッフに安心して働いてもらえるような環境とするため。これからも“人間力”を持って、会社に貢献していきたいですね。



The Philosophy of TAKAHASHI SOUGISHA

あなたと共に生きる

Seiji Ashizuka